

故ニック・ユソフ君の墓前供養

歯学部 菅野義信

四十六年前、雄図むなしく原爆により亡くなられ、五日市光禅寺先代の住職星月農人様他の御厚意で、ほぼイスラム方式の大きく立派な墓が寺の墓地にでき、南方特別留学生の一人、故ニック、ユソフ(Nik Yusof Bin Nik Ali)君の二十七年目の墓前供養は、八月六日(火)午後二時からとり行われた。



三代目星月住職様の讀經中、参加者は漸次焼香した。仏式供養の後、学生部長の肝入りで参加してくれたマレーシアからの留学生はイスラム教にのっとったお詣りを行った。

供養に参加された市民の方々は故人に縁の深い吉川英子、中村千重子、増村昭子の皆さん方、留学生は本学経済学部のモリ、ナジマ(Moly Nazima Binti Rosli)、ロスリナ、ママト(Roslina Bte Mamat)のお二人と、ロスリナさんの友人で、夏休中とのことと、広島に立寄った静岡大学のロキア・パイ(Rokiah Paee)さん。三名ともお国の正装と思われる美しい服装での参加であった。広島大学からは田中隆荘学長以下和田斉総務係長、山口博国際主幹、與那原進留學生主幹、教官側では横山英名普教授に小生が参加した。その他、ほとんど毎回御出席下さる池内智恵子さんと上里一郎学生部長からは御芳情をいただいた。供養後の語らいの間、広島に珍しく夕立風情の雨となったが、散会する頃にはほぼやんだ。当時の文理大内で留学生と何日かを過ごした市民の参加者は、雨も想出のひとつのよう、広島大学の西条移転後の現東千田町の校庭の将来を気にしておられた。



年月を経るに従って、関係の方々も齢を重ねられ、各種の事情で参会も困難になってくる。中山士朗著の「天の羊」の取材に協力した広島在住の方々はどうしておられるのであろうか。最近私はもう何年か瀬川くに子さんにはお会いしていない。又通知した方々のうち、中山士朗氏に協力し、何回か供養に参加された木元義隆氏宛の郵便物は転居先不明で戻ってきた。電話は呼出し音はきこえるが反応がない。

一方、京都の故オマール君の墓の近くの京都市立修学院小学校の生徒一同は平和問題の一環として故オマール君の墓から南方特別留學生問題を掘りおこし、広島への修学旅行時に興南寮跡に立寄っている。その早川幸生先生が特に今回、この供養に参加された。